

令和7年度白石市総合計画・総合戦略推進委員会

1 開催概要

●日時 令和8年3月23日（月）午後1時30分～午後2時40分

●場所 白石市防災センター2階 会議室

2 委員

	区分	団体等名称・役職	氏名	出欠
1	産業	白石商工会議所会頭	朝倉 秀雄	
2	産業	白石市産業振興会議代表	佐藤 全	欠席
3	産業	白石市観光協会会長	佐藤 善一	欠席
4	産業	白石市認定農業者	志村 竜生	欠席
5	教育	公立大学法人宮城大学事業構想学群教授	徳永 幸之	
6	教育	白石市校長会長	石川 裕之	
7	金融	七十七銀行白石支店長	高木 勇人	欠席
8	金融	仙南信用金庫業務推進部業務推進課長	堀田 康郎	欠席
9	労働団体	連合宮城仙南地域協議会白石地区会議事務局長	加藤 雅也	欠席
10	メディア	一般社団法人スポーツ・ラボ理事長	児玉 聡	欠席
11	士業	中小企業診断士	佐藤 勝幸	
12	議会	白石市議会議員	佐藤 秀行	欠席
13	学識経験	白石市歴史文化アドバイザー	麻生菜穂美	(WEB)
14	学識経験	プランニング開代表・アトリエ自遊楽校主宰	新田新一郎	
15	学識経験	白石市移住交流コーディネーター	太斎 沙織	
16	地域組織	白石市自治会連合会長	紺野 澄雄	
17	地域組織	斎川公民館事務長	佐藤 幸枝	
18	子育て	白石刈田地区父母教師会連合会長	半沢 健太	欠席
19	子育て	子育て世代	大庭 知子	

3 白石市出席者

	役職	氏名
1	市長	山田 裕一
2	副市長	村上 忠則
3	副市長	大庭 豪樹
4	教育長	半沢 芳典
5	総務部企画政策課長	高橋 雅美
6	総務部企画政策課長補佐	佐藤 弘子
7	総務部企画政策課	引地 昭憲
8	総務部企画政策課	佐藤 海斗

4 配布資料

- ・ 次第・名簿
- ・ 資料1 白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略の計画期間の延長について
- ・ 資料2 地方創生に関する総合戦略
- ・ 資料3 「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き（令和7年12月版）」
- ・ 資料4 地域未来戦略の策定に向けた考え方
- ・ 資料5 第六次白石市総合計画指標見直しの一覧表

5 議事概要

○市長挨拶

本日の委員会では、白石市まち・ひと・しごと創生第二期総合戦略の期間延長、第六次白石市総合計画に係る指標の見直しについてご協議をいただくこととしている。委員の皆様におかれては、専門的知見をはじめ、普段の生活から感じていることなど、様々な角度からご提案、ご意見を賜りたい。

さて、現在、我が国はこれまで経験したことがない、急激な人口減少と少子高齢化という大きな課題に直面している。この傾向は、地方において顕著であり、本市の人口も、昨年12月末時点で3万人を割り込んだ。政府もこの事態に対し、当面は人口、生産年齢人口が減少するという事態を正面から受けとめた上での施策の展開を市町村に対して求めており、本市においても、人口減少してもなお、持続可能なまちに生まれ変わらせるための施策を進めていかなければならないと考えている。豊かな自然、育まれてきた歴史・文化、恵まれた交通環境など、白石市が持つポテンシャルを活かし、そして、（仮称）白石中央スマートインターチェンジとその周辺整備を本市の活性化のチャンスととらえ、市民、企業、行政が一丸となって、市の発展に取り組んでいけるよう、皆様のお力添えをいただければと考えているので、本日は、忌憚のないご意見を賜りたい。

○審議

(1) 白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」の期間延長について

事務局より、資料1から4をもとに、第2期総合戦略の期間延長について説明。

【委員からのご意見等】

- 資料4に関して、国や都道府県の計画と連動・連携してということだが、こちらから働きかけをしていかないと計画に組み込まれないのではないかと危惧するのだが、既に動きがあるのか。
- ⇒ 県の方から先ほど説明した地域産業成長プラン等に関して具体的な説明等はないが、現在、新たな総合戦略について素案を策定しているところであり、今後、推進委員会にお諮りしたいと考えている。委員のご指摘の通り、県の方からの情報を待っている姿勢ではなく、すぐ対応できるよう、様々な成果指標や戦略の見直しなどを進めているところである。

(2) 第六次白石市総合計画に係る指標の見直しについて

事務局より、資料5をもとに説明。

- ホームページの閲覧数など様々な部分で見直しをしているが、その理由や目標値を設定したデータや根拠はあるのか。
- ⇒ 今回の見直しについては、達成率を高くすることを目的としているわけではない。
まず、総合計画は10年間の長期計画であるが、今の時代、10年先を見通すことは大変難しいと感じている。様々な技術革新などもあり、おそらく5年先を正確に予測するのも非常に難しくなっていると感じている。
ホームページに関しては、この5年の間に、新たに子育てに関するページを作った。そうすると、市のホームページからアクセスを経由せず、直接そちらのホームページにアクセスする方が大変増加した。市民からはダイレクトに欲しい情報にたどり着くようにして欲しいという要望もあり、ホームページの見直しを重ね、直接子育て支援サイトにアクセスできるようにした。そのため、一概にホームページのトップページを見る回数が減っていることで、行政とか様々な事業に関心を持ってもらっていないということにはまずならないと考えている。ホームページは、リニューアルを重ね、より充実した内容にしている。
また、SNSに関しても、新たにInstagramやYouTubeを取り入れ、様々なSNSの媒体を活用している。SNSを取り入れたら、そちらのアクセスが増加し、市のホームページに直接アクセスするという方が少なくなってきたのが現状である。
そのため、あえてここでホームページ閲覧数だけを指標とするよりは、もっと違った角度から分析できるのではというところで、指標の見直しをしており、より市民のニーズや実態を反映するためには、このような切り口から指標を検討したほうが良いのではないかとということで協議した結果、今回このような形での見直しとなった。
- 指標の見直しについて、なぜこういう形に見直したのかという部分が分かりづらいものがあるので、分かりやすい説明をしてほしい。市民に対する説明・公表について、どのように考えているのか。

⇒ 本日の様々なご意見を受けて、再度指標の見直しについて検討し確定させたいと考えている。その内容は、ホームページで市民に周知したいと考えている。委員からのご意見のとおり、見直しに関する説明については、再度検討したい。

○ 表をそのまま載せるだけでは説明が不足していると思うので、資料の冒頭や大きく見直した項目のところについて、なぜこのように見直したのかという説明を簡潔に書くと良いかと思われる。

○ 生涯・学習スポーツの指標について、公民館利用者数をカウントするということが、見直しの理由として、広く生涯学習活動、スポーツ活動、地域活動に取り組む市民を対象とした指標として見直しをすとなっている。公民館で各種行事を開催する際、今まで通りの開催方法では会場へ行くまでの足が無いという課題もあり、むしろ公民館から地域に出向くといった形をとり、サロン活動の場や集会所で行事を開催している。さらに、運動会や球技大会など地域の人が多く集まる行事は、学校のグラウンドなどを使うこともあるので、公民館利用者にそういった人数もカウントできないかと思った。毎月公民館の利用者数を提出する際、主催事業や共催事業として、その行事や参加人数を提出しており、さほど手間はかからないと思う。そうすることで、目標値の実績も上がっていくと思われる。

⇒ 現在の指標が、生涯学習・スポーツの推進という分野の指標として、スポーツ少年団の加入率を設定しているが、スポーツの推進というのは、子供も大人もスポーツに取り組んでいる方はたくさんおり、また、スポーツ少年団に入らないがスポーツに取り組む子どももいる中で、どのような切り口で測定をするのか、また目標値を作るのか議論した。この分野の測定の仕方が非常に難しいところがあったが、生涯学習・スポーツという観点から見た場合に、むしろ生涯学習の方も、人生を豊かにする上では非常に重要なことであり、公民館利用者数を指標として設定した。しかしながら、委員の発言のとおり、各地区まちづくり協議会や公民館の方々には、本当にご苦労いただき、様々なアイデアを出して開催しているので、この指標については、再度検討する。

⇒ 様々な指標を考えた場合、指標の設定や集計のために労力を使いすぎるのは本末転倒になる可能性もある。ただし、委員からのご意見にあったように、出向いて開催した場合を想定していなかったなので、再度検討する。

○ 公民館については、全国各地でこれからどうしたらいいか課題になっている。県内でも東松島市や塩竈市、利府町のように様々な形で地域の人々や民間事業者が公民館を運営している。そのような例を見ると、公民館は、社会教育・生涯学習という分野ではあるが、まちづくりにも非常に大きい影響を及ぼしている。斎川公民館の取り組みについて、公民館で来館者を待つ時代ではなくなったというようなことも含めて今後考えていく必要があると思う。

○ 公共交通の観点から言うと、足が無いという発言があったが、資源が限られている中で、すべての要望に応えるわけにはいかない、しかし、福祉や地域活動など様々な分野で連携が取れていないことがある。バスダイヤと合わないところで行事を設定してしまうと、バスが使えないじゃないかという話になってしまう。逆に合わせて時間帯を設定すれば、もう少し使えるようになるのではないか。公共交通を使いながら活動に参加できるような取り組みをすれば便利になる。そういう実績も、あちこちで見られ始めてきているよ

うなので、それぞれの分野のみではなく、地域でも様々な関係者が来るので、その辺りの連携を深めていくと相乗効果が生まれてくるのではと思うので、ぜひ連携を深めていく、そういう姿勢で取り組んでいくことが重要だと考える。

- 公民館利用者について、非常に活発に利用される方、一方で全く利用しない方、両極端になっていると感じる。このような状況を改善し、なるべく多くの市民に公民館を利用してもらいたい。要するに、公民館利用者数そのものを増やすというよりも、今まであまり利用してこなかった方に利用してもらえるような工夫をしていく必要があると思われる。
- 経営管理の視点から話をすると、指標とは、目標の達成状況を進行管理するためのあくまで目標値を代弁するような代表的なものである。PDCAを回す意味で進捗管理が重要で、計画と実態に差異があれば、どこに問題があるのか確認し、差異を修正するよう、目標を見直す又は手段を見直して実行していくという進め方が主流である。そのため、指標とはあくまで一つの実績・実態を表す数値であるという捉え方をしないと、指標に振り回されて目的と手段が入れ替わってしまうという問題が経営の世界でも発生しているので、注意して指標を管理していく必要があると考える。一つの指標で全てを表現しようとすることは大変難しく、あくまでこれは何かの一部のものを評価しているということ、市民に説明し、不足する要素があれば、そこを別な指標で補足するなど、柔軟に扱っていく必要があると思われる。

また、今の経営の世界は10年先を見通して経営計画を作ることは、ほとんどしておらず、短期・中期計画で3年から5年計画でローリングをしていくことを重視している。目標自体が固定化してしまい、柔軟な経営に支障が出ないように進めているので、今回の見直しについても、指標を見直すあるいは計画自体を見直すという局面もあるのではないかと思うが、柔軟に計画を立てて、進捗管理をしていくという形で進める必要があると思われる。そのため、市民に対する十分な情報発信を行い、他の委員からのアドバイスを市民目線という形でとらえ直し、分かりやすい形で発信していくことで、十分にこの指標も機能していくと思われる。

- 総合計画における目標、方針というのがあるわけだが、それをKPIという形で数値目標に示す必要があるため、数値や数字で測れるものだけ、このような形で指標化しているという部分があり、これが全てではなく、その全体の目標の中で、ある部分の具体例としてあげているというものでしかないと考えている。

そのあたりの意識を徹底していく必要があるし、さらに、それぞれの数値についても、人口や子どもの数、その他の項目もいろいろと関連してこの成果があるわけで、指標一つだけでなんとかできるものではなく、その他との相乗効果で効果を高めていかなければならないことが数多くある。しかしながら、この数字だけを見ると、そこに気づきづらくなってしまったため、そのあたりはしっかり連携を取りながら、意識を共有することが重要だと思う。

加えて、今回はどちらかといえば数値の見直しということで、その数値目標だけ変えているが、そもそもこの計画自体を見直す、あるいはやり方を変えてみる必要がある場面もあると思われるので、今後白石市の活性化のためには何が必要かということは常に検討する必要があると思う。

- 東大でトヨタと一緒にスマートシティという事業に取り組んでいる。新しいこと、わく

わくすることを、スピード感をもって検討していくことも必要かと思う。

- 今、日本の中で一番手に手を上げるってところが非常に重要なことになってきている。そういう意味では、情報のアンテナを高くしながら、白石市で何かできるものはないかと考える必要がある。
- 斎川の検断屋敷について、市が取得したということだが、今後その活用をどのように考えているのか。
 - ⇒ 斎川の検断屋敷については、市が寄附を受けた。条件として、斎川地区の方が主体的に今後のまちづくりの地域活動の拠点として考えてもらうものとして、市が寄附を受けたところである。地域の方が、一致団結して、除草作業をしたり、古くなった畳を運んだりし、本当に見違えるぐらい綺麗になった。地域の方の中には様々な技術を持つ方がおり、様々な活動をされているという報告を受けている。
- 地域の中で様々な道具や技術、知識を持っている方がたくさんおり、それらを総動員して、最初は、荒れ果てて竹やぶになっていた畑に、重機を入れて、開墾して、花畑を作るところから始まった。去年は、表門の瓦が危険であったので、地域の大工さんなどがほとんど全部持ち寄って、全部剥がして新しい瓦を上げて安全に通れるようになった。また、井戸がぼろぼろになっていたので、材料を様々なところから集め、地域の人たちで井戸にかかっていた屋根を全部直したことなど、楽しみながら活動している。怪我だけしないように、地区が責任をもって、関わる人にボランティア活動保険をかけ、できるだけ安全にこの後の作業も進めばよいなど見守っている状況。そのような形で皆さん楽しみながらやられているため、完成まで何年かかるか分からないが、優しく見守っていただければと思う。
- 以前に住んでいたところは、公民館の居心地がとても良かった、住みやすかったと感じているが、白石の公民館は、あまり居心地がいいとは感じてはない。コミュニケーションをとれる人がいたり、一緒にいて私も何かやりますよって言い出せる雰囲気づくりがとても大事だと感じている。公民館の居心地というのはとても大事だと思う。
- 指標で測れるものが全てではないため、例えば、指標にできないものについても、積極的に支援できるようなことが重要かと思う。
- 生涯学習の充実について、親子の参加の文化体験がないため、その部分についてもう少し掘り下げた計画を作れば、さらに良いものになると考える。
 - また、ホームページに関連して、若いお母さん世代はLINEの方が良く見ると思われるので、ぜひLINEに市だけでなく、市の関連団体の行事など、いいことをどんどん若い世代にPRして、市民に広報をするべきだと思う。
 - さらに、若いお母さん方を引きつけるものは、子育てに関する思い切った施策だと思う。他の市町村と同じものではなくて、例えば、未就学児のお子さんのいるお母さんに、電動自転車を無償貸与するとか、面白い・話題性のあるものにぜひ取り組んでほしい。

(3) その他

特になし

○市長挨拶

長時間にわたり、数多くの貴重なご意見等を賜り感謝申し上げます。

人口減少という大きな課題はあるが、白石市は、まだまだ高いポテンシャルを持ち、十分輝いていける市町村だと考えている。委員の皆様からの声をしっかりと伺いをした上で、今後よりよい白石市になるように進めて参りたい。「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」という目標に向かって、行政と市民と一緒に白石市を作り上げていきたいと考えているので、引き続きご意見・ご助力等を賜りたい。